

2017年9月1日

(倫理審査委員会承認日以降)

研究に関するお知らせ

(研究の名称：院内職員の個人防護具着用状況についての研究)

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター病院 国際感染症センターでは、以下にご説明する研究を行います。

本研究は業務上まとめたデータを用いた研究です。結果についてはリスクマネージャー会議等で発表しておりますが、ご質問がございましたら、下記のお問い合わせ先にお申し出ください。お申し出になられても、いかなる不利益も受けることはございませんのでご安心ください。なお情報は個人が特定できない情報に変換されているため、研究参加拒否は不可能となっています。

■研究目的・方法

<研究の目的と意義>

個人防護具(エプロン・ガウン、手袋)は湿性生体物質による汚染から医療従事者を守るだけでなく、手指衛生と同じく医療関連感染を予防することにより患者を守ることもつながります。個人防護具着用の遵守率についての日本からの報告は多くありません。当院では感染対策チームにより医療の質向上を目的として院内で個人防護具着用状況についての調査を行なっております。本研究は、調査の結果を元に、これまでに十分な知見がない医師や非医療者を含む院内職員の個人防護具着用の遵守率やその改善のための知見に貢献することです。

<研究の方法>

観察期間は2016年7月から2017年3月の期間で実施した個人防護具着用についてのビデオ調査結果のデータを用いて、院内での職種別の個人防護具着用の遵守率についてのデータを解析し、耐性菌などの感染対策が必要となった要因が遵守率に与える影響について検討を行います。医療者についてはすでに個人が特定できない状態となっている情報のみを用います。

■研究の対象となる方

2016年7月～2017年3月に当院に入院し、接触感染対策が必要となった20歳以上の方のうち、ビデオ調査にご協力いただいた患者様の部屋に入室した職員

■研究に用いる試料・情報の種類

上記の対象期間中に入室された職員の方の情報(職員の職種、遵守状況(手袋、ガウンの着用の有無、タイミング)についてのデータ等)を、研究に使用させていただきます。画像には基本的に職員の胴体部分しか確認はできず、頸部より頭側の個人が特定できる部位は確認していないため個人が特定できるものは含まれておりません。本研究では以前に行った調査結果のデータを利用するのみですので、改めてビデオの画像を確認することもございません。調査結果のデータには個人が特定できるような情報は含まれておりません。使用に際しては、政府が定めた倫理指針に則って個人情報情報を厳重に保護し、研究結果の発表に際しても、個人が特定されない形で行います。

■研究計画書等の入手・閲覧方法・手続き・手続きにかかる手数料等

あなたのご希望により、この研究に参加して下さった方々の個人情報の保護や、この研究の独創性の確保に支障がない範囲で、この研究の計画書や研究の方法に関する資料をご覧いただくことや文書でお渡しすることができます。ご希望される方は、どうぞ記載のお問合せ先にお申し出ください。

■個人情報の開示に係る手続きについて

本研究で収集させて頂いたご自身の情報は個人が特定できない情報に変換されておりますので、個人に関する情報をご覧いただくことは不可能になっています。

■研究責任者：

国立研究開発法人国際医療研究センター病院 国際感染症センター 大曲 貴夫

■お問い合わせ先

国立研究開発法人国際医療研究センター病院 国際感染症センター 片浪 雄一

電話：03-3202-1012 e-mail：info-dcc@hosp.ncgm.go.jp